



P4/Stratum活用に向けた プログラマブルスイッチの実装・検討

2018年10月19日 日本電信電話株式会社 NTTネットワークサービスシステム研究所 武井 勇樹

Copyright©2018 NTT corp. All Rights Reserved.

本日のアジェンダ



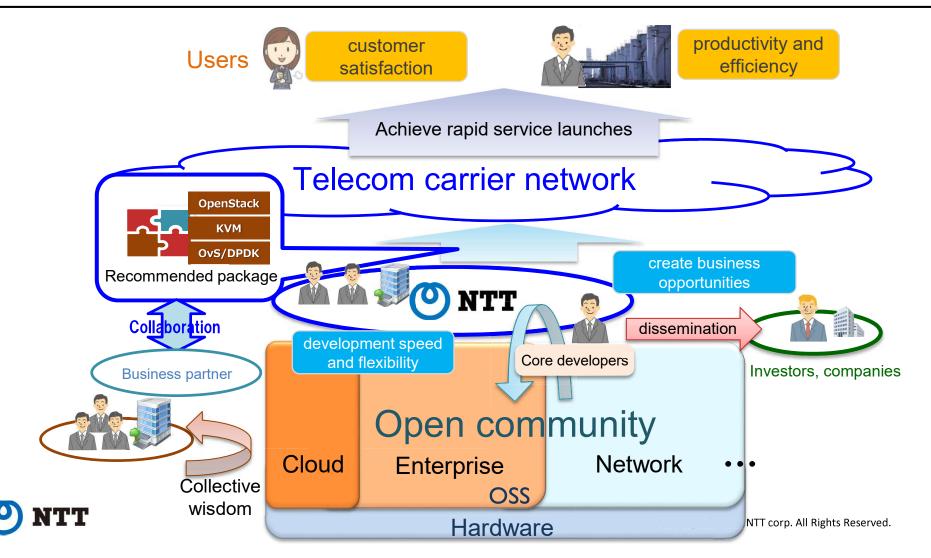
- 背景
- P4/Stratumの概要
- NTTのユースケース
- P4スイッチ/P4Runtimeの検討状況
- 今後の取り組み
- まとめ



NTTネットワークのR&Dビジョン



NTTは、「プロダクトのオープン化」と「OSSへの要件インプット」の両面からコミュニティ活動を実施し、通信 キャリアネットワークへの適用を検討している。



ONF Reference Designs



- NTTではONF (Open Networking Foundation)に参加し、議論を実施している。
- ONFの新たな活動の方向性として、以下の技術分野に中心に取り組む方針を発表(2018.6)。 我々はRD-UPANにおいて、P4/Stratumの通信キャリアにおけるユースケースを議論している。

	概要	ベースとなるONFの取り組み	オペレータ	
RD-SEBA (SDN Enabled Broadband Assess)	Lightweight reference design supporting a multitude of virtualized access technologies at the edge of the carrier network, including PON, G.Fast,DOCSYS and more.	R-CORD	AT&T, Deutsche Telekom, NTT, Turk Telekom	
RD-Trellis	SDN-native spine-leaf data center fabric optimized for edge applications.	Trellis	Comcast	
RD-UPAN (Unified, Programmable & Automated Network)	Next generation SDN reference design, leveraging P4 to enable flexible data plane programmability and network embedded VNF acceleration	Stratum	China Unicom, Deutsche Telekom, Google, NTT, Turk Telekom 我々の取り組み領域	
RD-ODTN (Open Disaggregated Transport Network)	Open multi-vendor optical networks	ODTN	China Unicom, Comcast, NTT	

NTTグループからはRD-SEBA(vOLT)、RD-UPAN(エッジ/P4/Stratum)、RD-ODTN(ODTN)に参加





P4/Stratumの概要

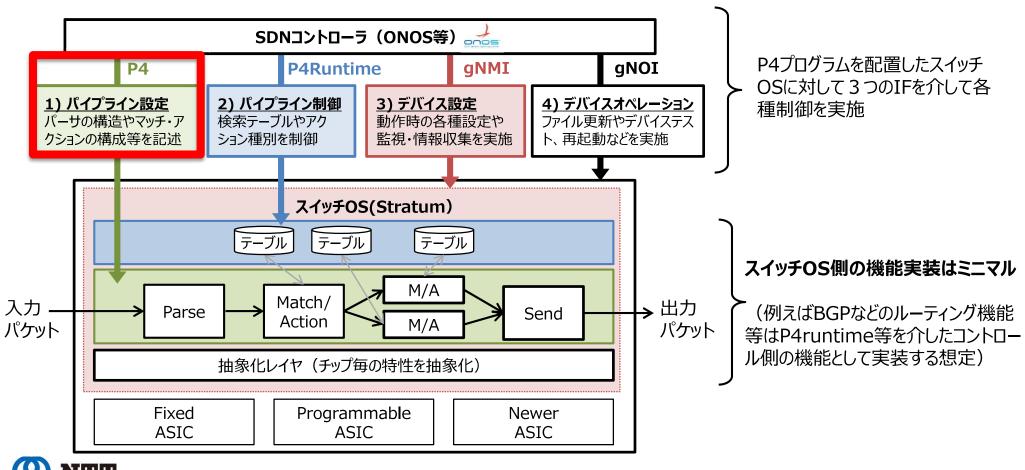


Copyright©2018 NTT corp. All Rights Reserved.

Stratumとは



- Stratumは、SDN集中制御を前提としたミニマルな機能実装を指向したスイッチOSである。
- 異なるベンダチップを搭載したスイッチであっても統一的な手段で制御するためにP4Runtime・gNMI・ gNOIと呼ぶインタフェースを規定。



P4とは



NTT Confidential

• P4 :

High-level Language for Programming Protocol-independent Packet Processors の略

- パケットを受け取ってから、その中身に応じて処理を行い送り出すまで(データプレーン)
 の動作を記述するためのプログラミング言語
- 『特定のプロトコルに依存せず, パケット処理の独自仕様を実現できる』 (Protocol-independent)
- 『多様なハードウェアの仕様を意識せず, パケットの処理の内容を実装できる』 (Target Independent)





P4対応デバイス



- CPU、FPGA、NPU、スイッチASICといった多様なデバイス種別に対応している。
- P4には現在 2 つの仕様バージョン(P414 / P416)が存在し、どちらもメンテナンスが継続。

デバイス種別		フレームワーク例	コミュニティ/ベンダ例	サポートP4バージョン
CPU		BMv2	P4.org	P4_14/16
Smart NIC	FPGA	SDNet	Xilinx	P4_16
		NP4	Netcope	P4_14
	NPU	Agilio	Netronome	P4_14/16
Switch-ASIC		Tofino	Barefoot	P4_14/16

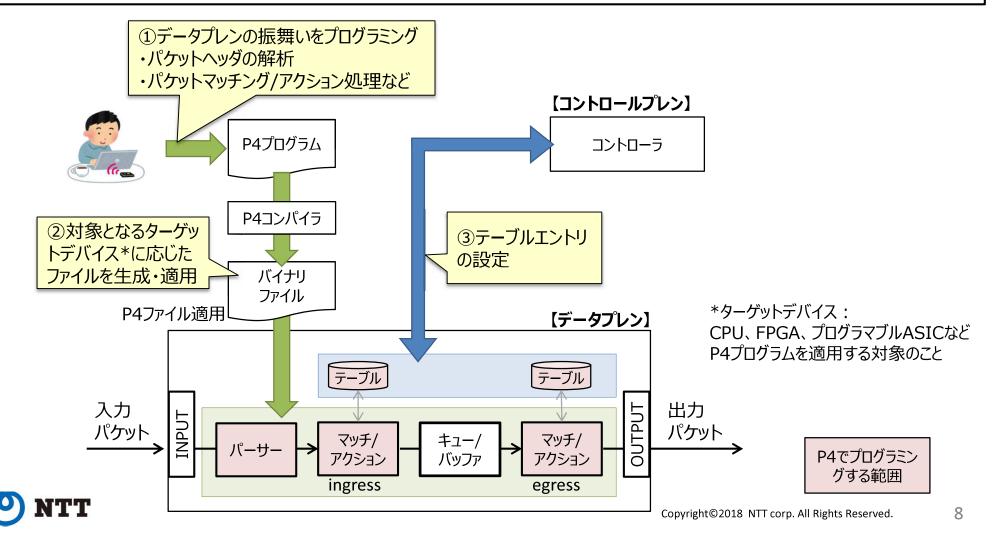
※2018.10時点



P4でパケット転送するまでの基本的な流れ



- データプレンの振舞いを定義するプログラム(P4プログラム)を準備し、コンパイル(①②)
- パケット転送に必要なテーブルエントリを設定し、パケットを転送(③)

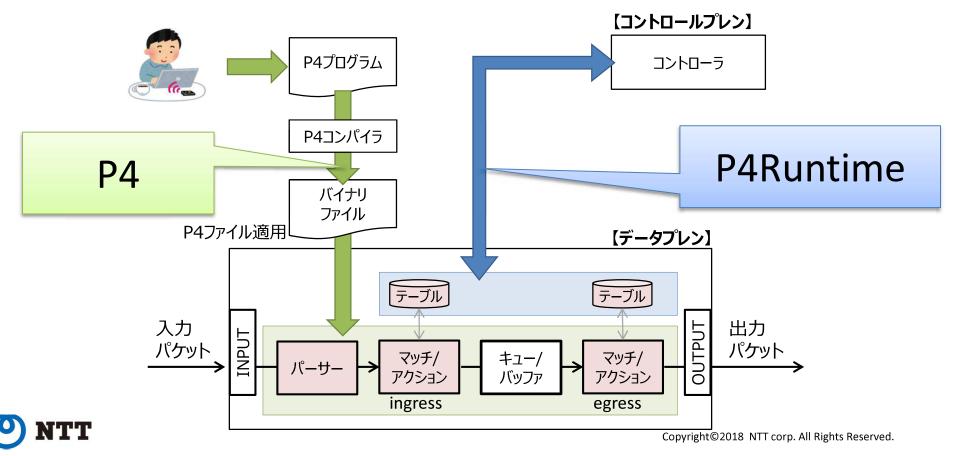


P4とP4 runtime



P4:デバイスを抽象化し、スイッチがどのようにパケットを処理するか定義。 パイプラインの指定(どのフィールドが一致するか、どんなアクションを実行するか等)。 P4Runtime:固定的な機能のスイッチであるか、プログラマブルであるかに関係なく、P4言語で動作が

FRUITUME: 固定的な機能のスイッチであるが、プログラマブルであるがに関係なく、P4言語 指定されている機能を制御するために使用するAPI。

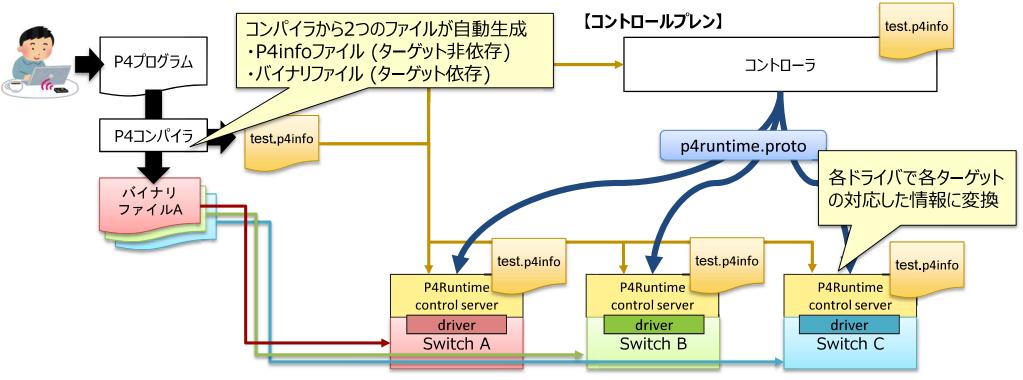


P4処理の流れについて



コンパイラから2つのファイルが自動生成。

①P4infoファイル (ターゲット非依存):コントロールプレーンから制御するために必要なテーブルIDなどの対応関係が格納。外部コントローラはこのファイルを参照しながらターゲットデバイスを制御。
 ②バイナリファイル (ターゲット依存):対象となるターゲットデバイスに応じたデータプレーンファイル。





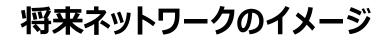


NTT Confidential

NTTのユースケース

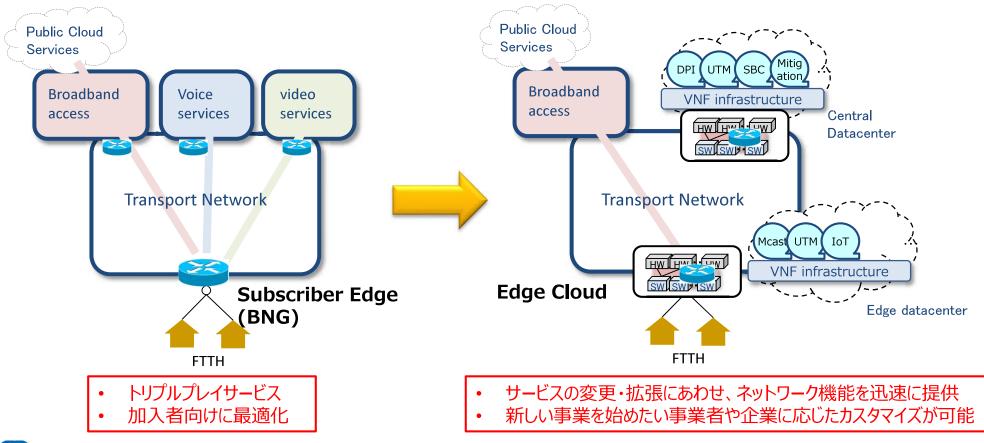


Copyright©2018 NTT Corp. All Rights Reserved.





- 将来のネットワークにおいては、サービスの変更・拡張に対して、経済的かつ柔軟に対応するため、プロ グラマビリティが要求されると考えられる。
- この実現に向けて、P4/Stratumを活用できないか検討している。





P4/Stratumのユースケース



• 我々はP4/Stratumを活用のユースケースとして、2つのアプローチを検討。

① BNGのディスアグリゲーション (VNFオフロード)

② 通信品質の可視化 (In-band Network Telemetry)

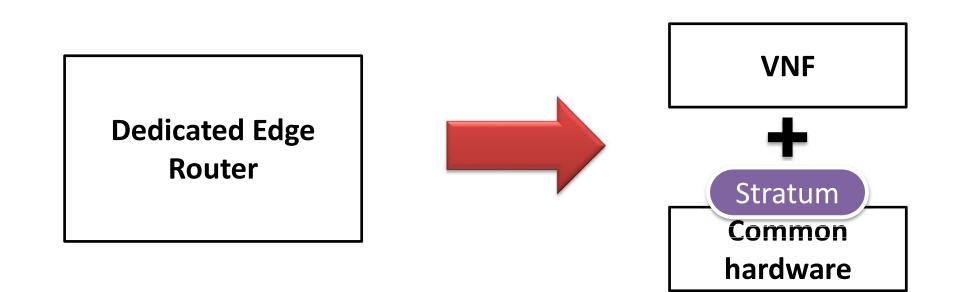
効用	BNGのディスアグリゲーション (VNFのオフロード)	通信品質の可視化 (In-band Network Telemetry)
効用	NWの経済化	新サービス提供
解決する課題	現状の仮想化NWでは、高度な性能を 出すためにはサーバ増設が必要あり、 CAPEXが増加してしまう	現状のNW基盤では、低遅延等の新 サービスに向けた、厳密な通信品質の 管理ができない
実現できること	プログラマブル技術により、サーバ上の 機能の一部をスイッチへオフロード可能 となり、サーバの増設台数を抑えること ができる	プログラマブル技術により、細かい単位 で情報を取得可能



ユースケース1 BNGのディスアグリゲーション(1/2)



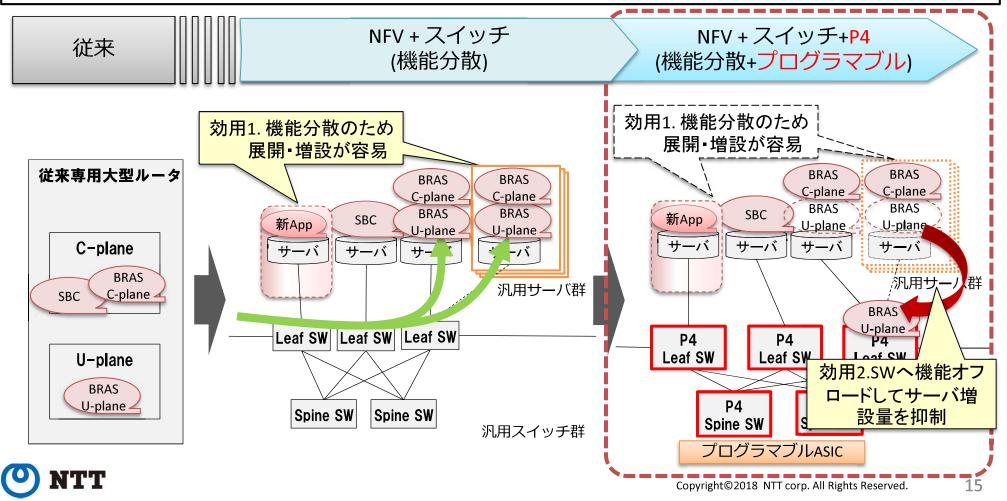
• ネットワークの柔軟性・スケール性の向上のため、既存の大型ルータを汎用装置とVNF技術による実現を目指している。







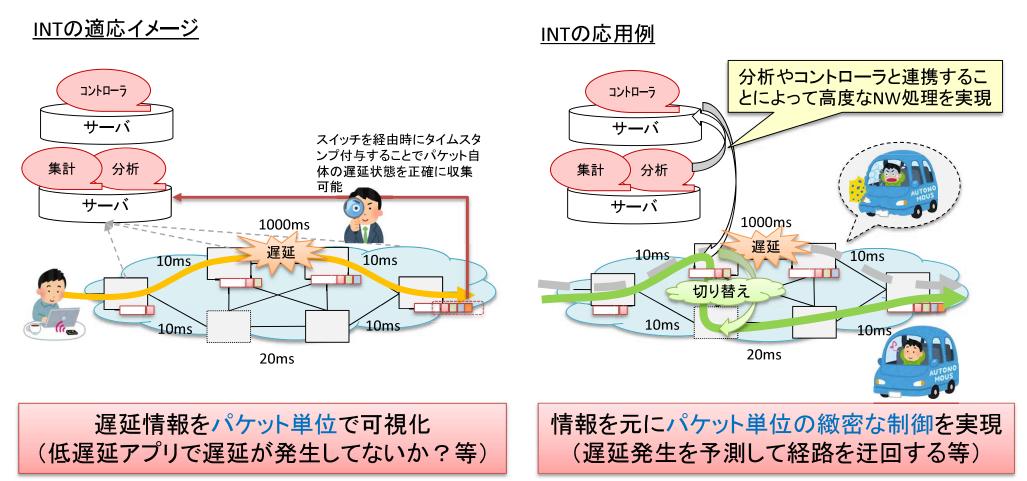
汎用サーバだけではなくホワイトボックス側にも自らが定義した機能を自在に分散配備できる。 効用1.必要な設備を必要なだけ増設すれば良いので、新たなサービスを迅速かつ安価に展開可能。 効用2.汎用サーバ上で仮想化している機能の内、ボトルネックだけをスイッチ側へ移行可能。



ユースケース2 通信品質の可視化



- 情報取得を装置単位からパケット単位にすることができ、通信品質を満たしているかを明確に可視化。
- 細かい単位で情報を取得できるので、精緻な制御を実施可能なインフラを用意できる。





P4スイッチ/P4Runtimeの検討状況



Copyright©2018 NTT corp. All Rights Reserved.

取り組みの全体像

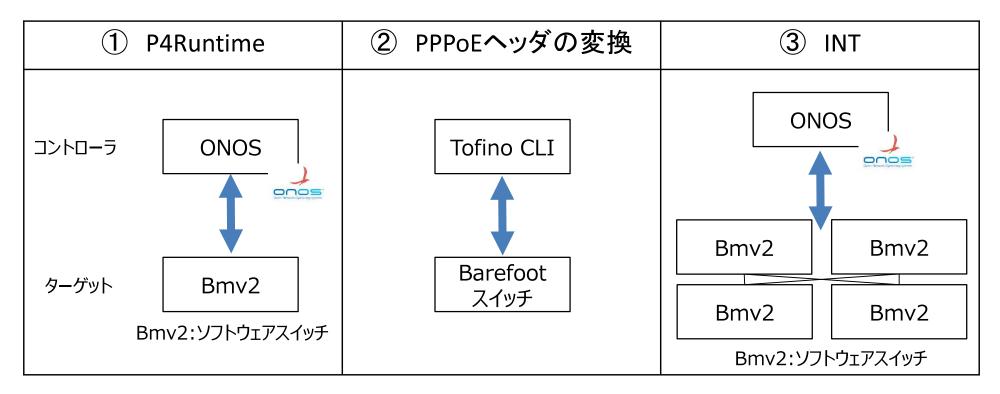


P4/Stratumを用いたユースケース実現に向けて、現在下記の評価・検討を実施。

① P4Runtimeの実装状況の確認

② P4によるハードウェアオフロードの実現性の確認 (PPPoEヘッダの変換)

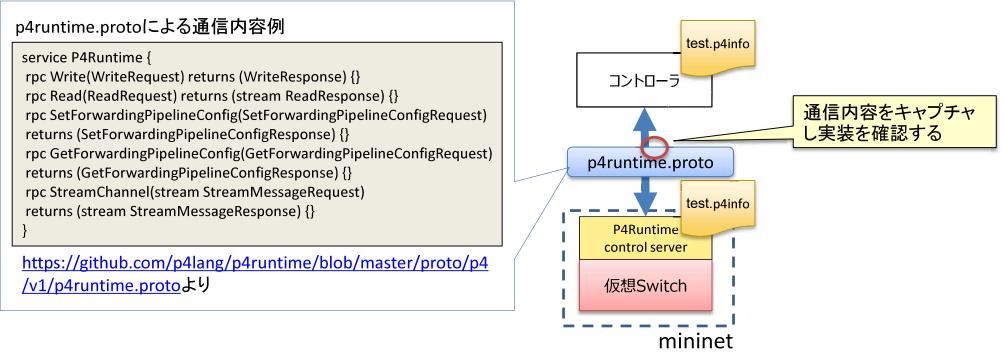
③ P4によるINTの実現性の確認



① P4Runtimeの実装状況 (1/2)



- P4Runtimeは、2018.6に仕様ドラフトがFIXされた。
- ONOSコントローラとデバイス(ソフトウェアスイッチ)間の通信をキャプチャ・Wiresharkで解析することで、 P4Runtimeの実装状況を調査する。
- ONOS wikiのチュートリアル(※)を実施。



※ONOS wikiのチュートリアルより

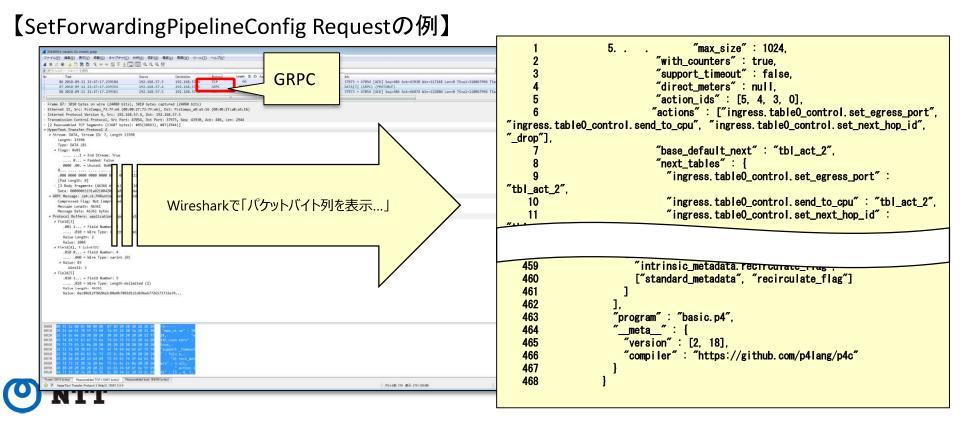
https://wiki.onosproject.org/display/ONOS/P4Runtime+support+in+ONOS



① P4Runtimeの実装状況 (2/2)



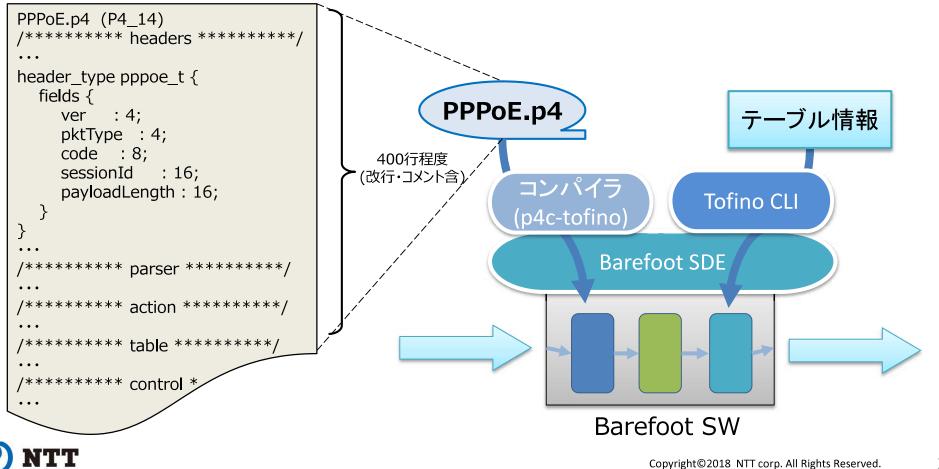
- Bmv2環境におけるP4Runtimeの実装状況。
 - ONOS⇔bmv2間でのgRPCベースの通信は実装済みであることを確認。
 - SetForwardingPipelineConfig RequestではBmv2のjsonファイルを送信など。
 - ONOSのGUIからネットワークの構成およびデバイスの情報が表示できる。
- 現在、ONOSとbarefootのスイッチを接続し、同様に通信を解析中。







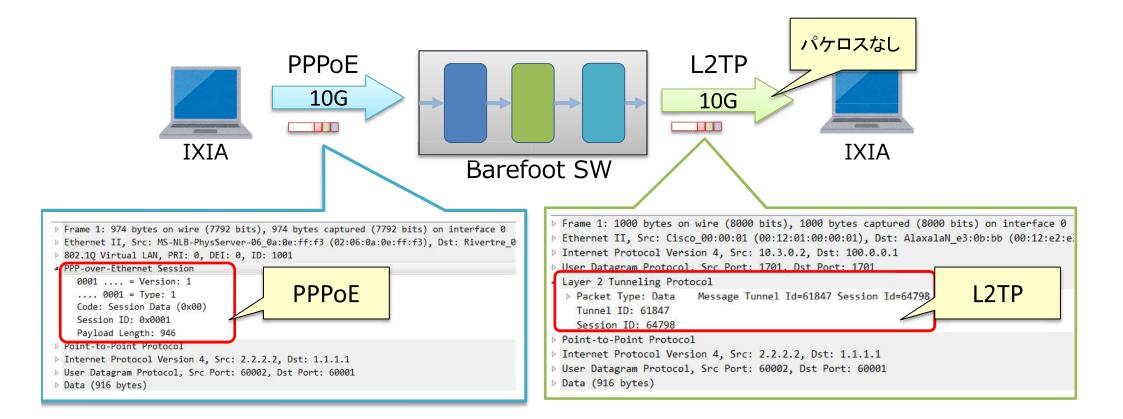
- PPPoEパケットをL2TPパケットに変換するオリジナルコードをP4_14で作成。
 → 非常に簡単に実装が可能 (400行程度)
- Barefoot SDEを用いてスイッチ上に実装。



② P4によるPPPoEへッダの変換の実装 (2/2)



- 試験機より疑似パケットを印加し、実装した機能が動作するか確認。
- 下記のように、ハードウェアスイッチ上でパケットの変換動作が可能。

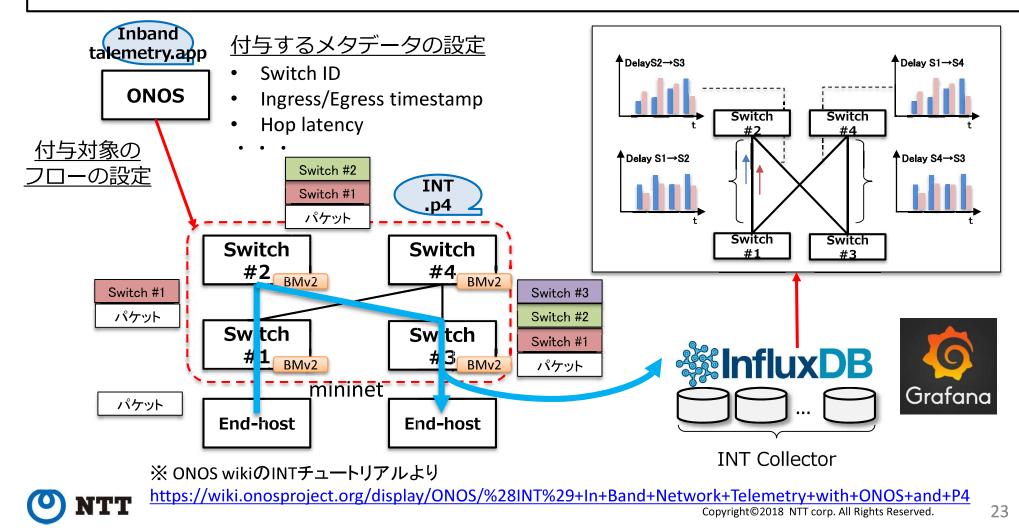




③ P4によるINTの実現性の確認 (1/3)

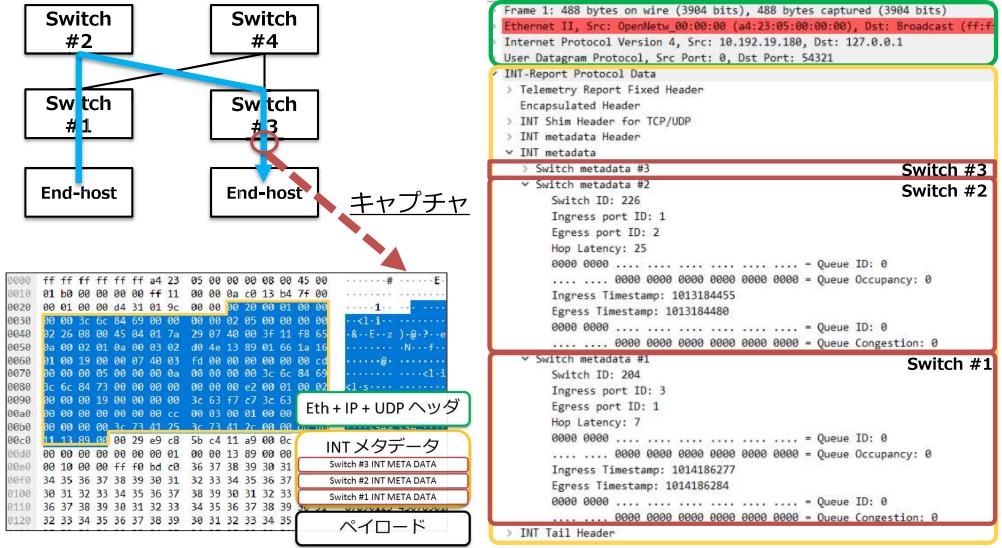


- INT(In-band Network Telemetry) とONOSを用いたINT実装を確認。
- ONOS wikiのINTチュートリアルを使用。



③ P4によるINTの実現性の確認 (2/3)







③ P4によるINTの実現性の確認 (3/3)





🕐 NTT

P4検証を通して、わかったこと



- P4Runtimeの実装が進んできている。
- P4プログラミングは簡単。
 - チュートリアルが整っている。
 - 数百行程度のコーディングで任意の機能がスイッチで実現できる。
- スイッチの環境構築に苦労
- 現在は、デバイス依存箇所が存在
 - ポート番号、リソース量等のデバイス依存要素を考慮しなければいけない場合あり
 - 検証時、BarefootスイッチはP4_14にのみ対応(現在はP4_16にも対応)





今後の取り組み



Copyright©2018 NTT corp. All Rights Reserved.

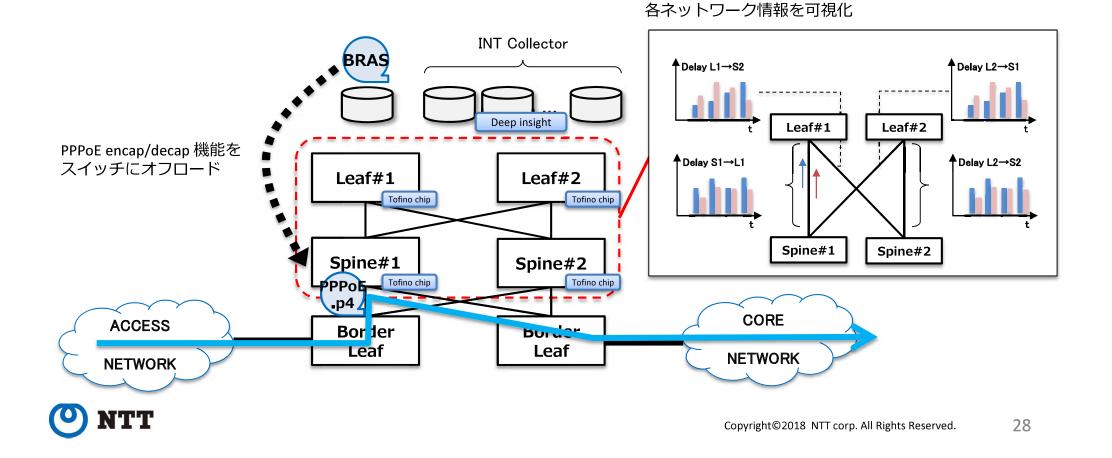
PoC @NTT NS Lab.



P4とプログラマブルスイッチを用いたBNGのディスアグリゲーションのPoCをNTT NS研で実施予定(11月)

in-band-network telemetryによって

- ① Disaggregate PPPoE/L2TP Function with P4 program
- ② In-band-network telemetry with P4 program







• P4/Stratum活用ユースケースの見極めを継続。

✓ 2つのユースケースについて、NTT R&D Forum (2018.11)でPoC予定

✓ 2nd STEPとして、ONOS/Stratum適応について検討。2019.1頃にPoC予定

 FY2018				FY2019
Apr.	Jun.	Oct.	Jan.	Apr.
1 st STEP				
 Evaluate P4 Use cases for BNG > Disaggregate PPPoE Function > In-band-network telemetry ▲ PoC (NTT R&D Forum2018) 			Forum2018)	
2 nd STEP				
Apply P4/stratum for BNG > 1 st STEP P4 use cases > ONOS/Stratum integration ▲PoC予定				



- P4/Stratumの実装が徐々に進んでいる。
- P4/Stratumを活用のユースケースとして、2つのアプローチを検討。
 ① VNFのオフロード、②通信品質の可視化
- P4を用いた機能実装は簡単である!

